

1. 対象コミュニティ

■富山県富山市

一歩いて暮らせる拠点集中型のコンパクトなまちづくり

公共交通の活性化

公共交通沿線地区への居住促進

中心市街地活性化

ICカード(セ ترام用(左)・コミュニティサイクル用(右))

会員制コミュニティサイクル

■富山市都心部(10校下)の高齢化率と星井町地区

NO	校下名	人口(人)	65歳以上人口(人)	高齢化率(%)
1	総曲輪	1,888	627	33.2
2	八人町	1,708	555	32.5
3	五番町	3,476	1,133	32.6
4	柳町	6,251	2,024	32.4
5	清水町	4,454	1,473	33.1
6	星井町	2,606	928	35.6
7	西田地方	6,439	1,906	29.6
8	愛宕	4,268	1,165	27.3
9	安野屋	3,095	876	28.3
10	奥田	10,860	2,884	26.6
富山地域		322,059	84,072	26.1
市全体		420,496	108,609	25.8

(平成25年3月末)

2. 研究の背景

地方都市中心部(まちなか)で進展する高齢化。
まちなか高齢者に対する健康支援をどのように展開するか？

【まちなか居住】

■まちなか居住は、高齢者の健康増進要因である「外出」「交流」を、日常生活として享受できる魅力的な環境である。

■まちなか居住を誘導する都市政策が推進されている(中心市街地活性化や集約型都市構造への転換等)。

【まちなか高齢者の暮らし】

■外出(買物・行事参加等)を控えている現状がある。

→毎日外出者:約50%

→外出減少感あり:約70%

■その理由

①足腰に不都合がある

②行きたい場所がない

ハード面での都市整備と並行して、都市環境と高齢者の歩行能力のギャップを埋める必要がある。

都市環境と高齢者の歩行能力のギャップを埋める手段

(1)高齢者の歩行機能/能力の維持・向上を図るために、機能訓練を実践するという発想

(2)低下した歩行機能/能力を補完するために、道具を使うという発想

→本プロジェクトの発想はココ！！

本プロジェクトで開発中の歩行補助車

【平成19-22年度】
(1)1号機の製作

・姿勢保持機能(ハンドル高さ調節)

・立ち上がり補助機能

・ブレーキ(手元・駐車)

・速度調整機能

・椅子機能

・折りたたみ機能

【平成23年度】
(1)2号機の試作

(2)安全調査

(3)2号機の製作

・1号機の機能に追加

+スタッキング機能

+生活補助機能(かご、杖ホルダー、傘ホルダー、ベル等)

3. 到達目標

■本研究は、元気な高齢者だけでなく身体が弱くなった高齢者も積極的に街に出て、生き生きと交流を楽しむことのできる生活圏を「歩行圏コミュニティ」と定義し、その実現に必要な条件を抽出することを目的としたアクションリサーチ※である。

※アクションリサーチ:研究者が住民との協働を通し社会実験を行い、住民の意識や行動に影響を及ぼすことでコミュニティを変容させ、それを通じて実践的な知を生み出す研究手法

目標

・コンパクトシティを標榜する富山県富山市において、大学、行政、住民が協働で「歩行補助車」を活用した歩行支援活動を試み、

(1)まず、高齢者の生活を助ける歩補助車の整備が都市中心部における歩行圏コミュニティ実現の基盤的条件であることを示す。

(2)次に、当該活動が高齢者のライフスタイルの変容ならびにコミュニティの活性化に繋がる可能性を検証し、高齢社会における歩行圏コミュニティの都市文化の普及発展を唱導する。

ホコケン

全体計画

■プロジェクト体制

- ・「歩行圏コミュニティ研究会(通称:ホコケン)」を結成
- ・富山大学、富山市行政、星井町地区住民、その他が協働でプロジェクトの全過程を進める。

富山大学	富山市行政	星井町地区	その他
理事・副学長	副市長	自治振興会(会長)	地元商店街
医学部看護学科	政策監	長寿会(福寿会会長)	地元企業
芸術文化学部	都市政策課	長寿会(白西会会長)	その他
人間発達科学部	長寿福祉課	長寿会(西鳳会会長)	
工学部	環境政策課	長寿会(三寿会会長)	
地域連携推進機構	保健所	長寿会(星寿会会長)	
学生	星井町地区センター	長寿会(万寿会会長)	
	介護予防センター	長寿会(宝来会会長)	
	(株)まちづくりとやま	長寿会会員	
		歩行補助車モニター	

7

8



具体的活動

■歩行補助車(4-Wheeled Walker)の開発

- ・年齢と共に低下する歩行機能・能力を補う道具として、機能的でカッコイイ歩行補助車を開発しました。
- ・モニターの方に日常生活の中で利用していただき、利用者の声をもとに改良に改良を加えています。

歩行補助車のPR活動

・まちではまだ見かけることが少ない歩行補助車。その存在や歩行補助車を使うという価値観を浸透させるため、PR活動を行っています。

社会環境の整備

・歩行補助車ステーション

商店街を闊歩するために、誰でも自由に使える歩行補助車を総曲輪通り(フェリオ、グランドパーキング、地場もん屋)に設置しました。

・とやま☆ホコケンICウオーク

楽しく街を歩きたいという気持ちとして、地場もん屋と中央通りまちなかサロン樹の子にICウオークチェックポイント機を設置しました。

取り組みの詳細

介入1. 歩行補助車の利用促進

【平成24年度】

- (1) 歩行補助車モニターの募集

介入2. 利用者・キーインフォーマント支援

【平成24年度】

- (1) 個別相談
 - ①ホコケン相談会(健康相談、歩行補助車のカスタマイズ・メンテナンス)
- (2) 学習会
 - ①街歩きコースの設定とその検証会1
 - ②街歩きコースの設定とその検証会2

【平成25年度】

- (1) 個別相談
 - ①ホコケン相談会(同上)
- (2) 学習会
 - ①街歩きコースの設定とその検証会3

介入3. 社会発信活動(PR事業)

【平成24年度】

- (1) 長寿会との共催イベント
 - ①エコな乗り物で港町岩瀬を巡ろう
- (2) 女子大生と行く街歩きツアー
 - ①女子大生と行く秋のまちなか街歩きツアー
 - ②晩秋の称名滝までバスハイク
- (3) その他: 第2回領域シンポジウム: 長寿会長がポスター説明者、マスコミ

【平成25年度】

- (1) 女子大生と行く街歩きツアー
 - ①名水の里で歩行補助車を使って歩いてみよう
- (2) グランドプラザイベント
 - ①まちなか・ゆる歩きとやま・2013
- (3) その他: 取材、マスコミ、学会報告

介入4. 社会環境の整備

【平成25年度】

- (1) 歩行補助車ステーションの試行(2013.8.1~)
 - ・総曲輪通り「グランドパーキング」「フェリオ」「地場もん屋」に、無料で自由に使える歩行補助車を設置。
- (2) とやま☆ホコケンICウオーク事業(2013.8.1~)
 - ・総曲輪通り「地場もん屋」と中央通り「街中サロン樹の子」にICカードチェックポイントを設置。歩行記録とともに「まち歩きポイント」を加算し、そのポイントは、ホコケンイベントのイベント通貨として活用する取り組み。

■ホコケンがめざす高齢社会のデザイン

歩行補助車が地域高齢者の生活を助け、そのコミュニティで見慣れた風景となれば、歩行補助車はコミュニティの文化となる。道具の助けを多少借りながら、自分で歩いて住み慣れた地域で普通の生活をする。それが、本プロジェクトの目指す高齢社会のデザインである。

■これまでの成果

1. 地区高齢者と協働で歩行補助車を用いた歩行支援を実践し、「まちなか」に歩行補助車ステーション・ICウオークシステムを設置するに至った。
→「見慣れた風景」の端緒を開いた。
2. 富山市市街地再開発事業(富山市行政、商店街)と連動しながら本プロジェクトを発展させることができれば、
→2015年春(新幹線開通、西町南地区・総曲輪西地区市街地再開発事業の完了)以降、「見慣れた風景」の実現へ……。



ホコケンギャラリー



2013.9.14グランドプラザイベント・サトビジツ



2013.11.23 ファミリーパーク検証会



トライ&エラーの集積(社会実験)

- 社会発信活動
 - ・利用者/キーインフォーマント支援
 - ・星井町地区住民と行うPR活動
- スモールステーション事業の拡大
 - ・まちなか+公園、病院、役所等(案)
- とやま☆ホコケンICウオーク事業

持続的な事業推進体制の検討

- 歩行補助車の製品化(公共ツール用)
- 「ステーション事業」「ICウオーク事業」の定着
 - ・・・富山市行政施策と連動
 - ・・・商店街との協働

プロジェクトの評価

報告書作成